

## 香川県産業技術センター (工業・食品部門)・発酵食品研究所の 研究成果発表会が開催されました

6月23日に産業技術センター、24日に発酵食品研究所において、2020年度に実施した研究成果についての発表会を開催しました。今回は、両会場にて22テーマの研究成果が報告され、県内企業を中心に計146人の方が熱心に聴講され、質疑応答がなされました。また、同時開催された「新技術セミナー in 高松」では、産業技術総合研究所における最先端の研究成果について講演がありました。

今回発表した研究報告書の内容は、産業技術センターのHPに掲載しています。



産業技術センター研究成果発表会(6月23日)

研究報告書はこちら [県HPページID 23909](#)

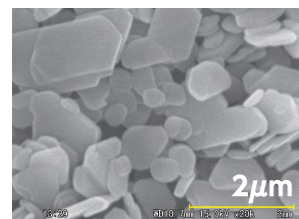
問い合わせ先 産業技術センター ☎087-881-3175



井上雅夫さん(左)と大石俊二社長

社長の大石俊二さん。研究開発部やオランダ現地法人、製造部門などを経験してきた同社のものづくりのエキスパートです。「未知の分野だからこそ、チャンスに満ちている。いわば、世の中にまだないものを生み出して、世界に貢献する仕事です」。「開発力と製造力が、当社の二本柱です」と力を込める大石さん。84年の世田谷局ケーブル火災をきっかけに、ケーブルの不燃化に注目が高まる中で強みを発揮したのが、同社が開発した難燃剤用水酸化マグネシウム「キスマ5」でした。樹脂に6割以上配合すると燃えにくくなる性質がありますが、粒子のサイズや形状をコントロールする技術が欠かせません。「この制御技術がとても重要で、1ミクロン以下の精度で制御しています」と語る大石さんは、粒子制御技術の開発に携わった技術者でもあります。難燃性だけでなく、燃えても水分しか出さない安全性の高さが評価されて、一躍ニーズが拡大しました。

「開発力と製造力が、当社の二本柱です」と力を込める大石さん。84年の世田谷局ケーブル火災をきっかけに、ケーブルの不燃化に注目が高まる中で強みを発揮したのが、同社が開発した難燃剤用水酸化マグネシウム「キスマ5」でした。樹脂に6割以上配合すると燃えにくくなる性質がありますが、粒子のサイズや形状をコントロールする技術が欠かせません。「この制御技術がとても重要で、1ミクロン以下の精度で制御しています」と語る大石さんは、粒子制御技術の開発に携わった技術者でもあります。難燃性だけでなく、燃えても水分しか出さない安全性の高さが評価されて、一躍ニーズが拡大しました。



「キスマ5」の拡大写真

問い合わせ先  
(公財)かがわ産業支援財団 取引支援課  
☎087-868-9904

### 医薬・工業原料を核に 多様な分野で市場を拡大

古くから製塩で栄えた瀬戸内の沿岸地域。同社の前身である協和化学工業所が塩田跡地で創業したのは1947年のことでした。製塩の副産物「にがり」を原料に、水酸化マグネシウム・酸化マグネシウムの製造販売を手掛けてきましたが、68年に希少天然鉱物ハイドロタルサイトの工業的合成に世界で初めて成功。以降、独自の新技术を次々と確立しています。胃腸薬、自動車、家電、バスタブ、農業用フィルム、スポーツドリンクやサプリメントといった身近なものから工

業製品などの原料まで、幅広く使われている同社の製品。工業分野と医薬品分野を中心に、製造拠点の日本・アメリカ・シンガポール・上海には自社販売拠点を置いて直接取引。中でも樹脂添加剤として利用するハイドロタルサイトは世界シェア6割ともいわれる圧倒的な競争力を確立しています。

「どれも一見するとシンプルな白い粉ですが、用途は広いですよ。基礎素材なので、粉のままではこれ以上展開しづらい。今まで使われていない分野にどう進出するか、新しい用途の開拓が鍵です」と、代表取締役

## 開発・製造力で世界に貢献 未知にこそチャンスがある



幅広い用途を持つ基礎化学品を開発製造し、国内外の自社製造・販売拠点を中心にグローバルな発想力で「お客さまの声」に応える香川のものづくり企業を紹介します。

### 協和化学工業株式会社

住所 坂出市林田町4035  
設立 1952年  
☎0877-47-0011  
<https://kyowa-chem.jp/>

